

# 中日环境问题趋势 日中の環境問題のトレンド

2021年12月1日

中日友好环境保护中心“建设环境友好型社会项目”首席顾问

日中友好環境保全センター“環境にやさしい社会構築プロジェクト”チーフアドバイザー

染野憲治

中日友好环境保护中心  
日中友好環境保全センター

- ✓ 1988年 中日首脑达成协议、由日方提供无偿资金援助支持中国建设
- ✓ 1988年 日中首脳間で設立合意、日本の無償資金協力により中国の建設を支援
- ✓ 1992年 起开展技术合作、开始向中国提供环境治理技术援助（法律与政策、监测、公害防治技术、人材培养）
- ✓ 1992年 技術協力プロジェクトを開始、環境対策技術支援を実施（法律・政策、観測、公害防止技術、人材育成）
- ✓ 1996年 环保中心建筑物竣工、实验和分析设备安装完毕
- ✓ 1996年 環境保全センター落成、実験・分析設備を整備



中日友好环境保护中心技术合作项目的开展  
日中友好環境保全センター技術協力プロジェクトの実施

1992-1995年 Phase I

- ✓ 为污染监测及分析技术人员的培养、环保中心组织体系构建等提供支援
- ✓ 汚染モニタリング及び分析技術人員育成、環保センター組織システム構築のための支援

1996-2002年 Phase II

- ✓ 加强污染监测、公害防治技术研究、环境政策研究、环境信息系统建设等环保中心的基础职能
- ✓ 汚染観測、公害防止技術研究、環境政策研究、環境情報システム建設等センターの基礎能力強化

2002-2008年 Phase III

- ✓ 致力于解决对东亚地区造成影响的问题（黄砂、悬浮颗粒物、酸雨、二恶英等）
- ✓ 東アジア地域に影響を及ぼす問題の解決（黄砂、粒子状物質、酸性雨、ダイオキシン等）
- ✓ 为进一步优化环境管理而健全相关政策与制度（发展循环经济、推进企业环境监督员制度及环境示范城市项目等）
- ✓ 環境管理最適化のための政策、システムの改善（循環經濟の發展、企業環境監督員制度及び環境モデル都市プロジェクトの推進等）

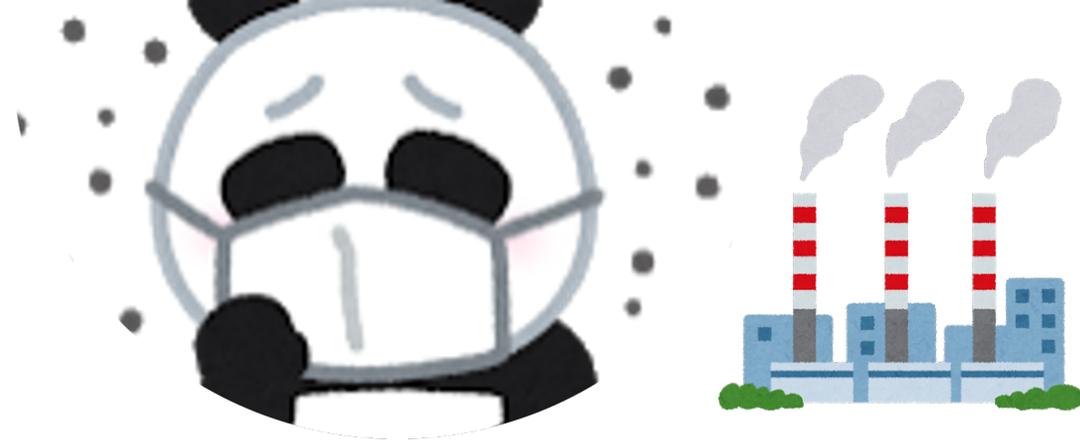
2008-2013年 Phase IV

- ✓ 为推进循环经济提供支援（①节约资源与环保型经济活动，②提高国民环保意识，③构建资源循环系统，④妥善管控废弃物）
- ✓ 循環經濟推進のための支援（①資源節約・環境保全型經濟活動、②国民の環境保護意識の向上、③資源循環システムの構築、④適切な廃棄物管理）

国際協力機構（JICA）“建設環境友好型社会项目”（2016.4-2021.12）  
 国際協力機構（JICA）“環境にやさしい社会構築プロジェクト”（2016.4-2021.12）

子項目 サブプロジェクト	内容 内容
1.促进环境保护政策制度，法律法规建设以及 环境污染防治技术合作  1.環境保護政策制度・法律制度の整備及び環 境汚染防止技術協力の促進	①大气污染分析（大気汚染分析）  ②水环境管理（水環境管理）  ③固体废弃物管理（廃棄物管理）  ④农村环境管理（農村環境管理）
2.促进完善环境污染防治基础的合作  2.環境汚染防止に向けた基盤整備協力の促進	⑤绿色供应链 (グリーンサプライチェーン)
3.提高公众等意识，开展能力建设与交流活动  3.市民等の意識向上、能力育成、交流活動	⑥提高环境意识 (環境意識の向上)  ⑦环境技术交流 (環境技術の交流)

# 綠色-大氣

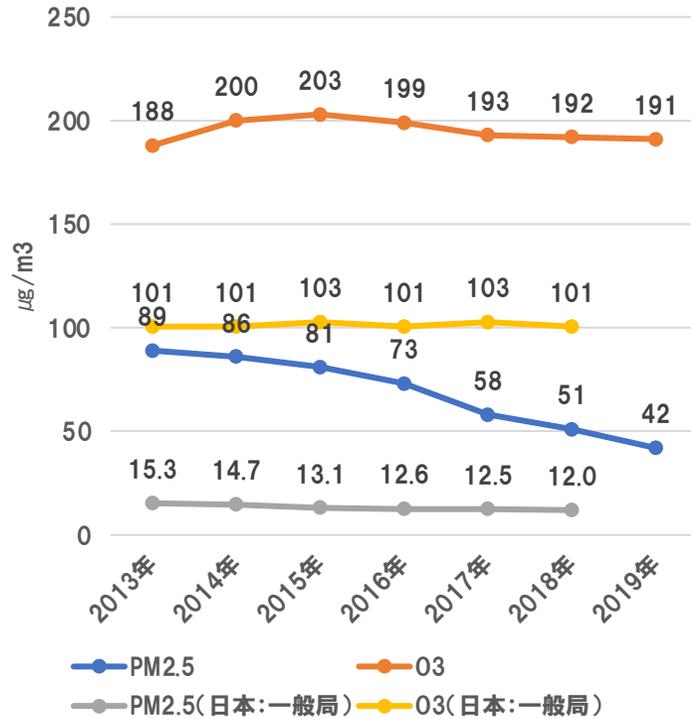


- 2013年1月 PM2.5問題
- 2013年9月 大氣污染防止行動計畫( **大氣十條** )
- 2014年4月 改正環境保護法成立
- 2015年8月 改正大氣污染防止法成立
- 2016-2017年 第1巡 **中央生態保護督察** 實施
- 2018年6月 藍天保衛戰三年行動計畫公表

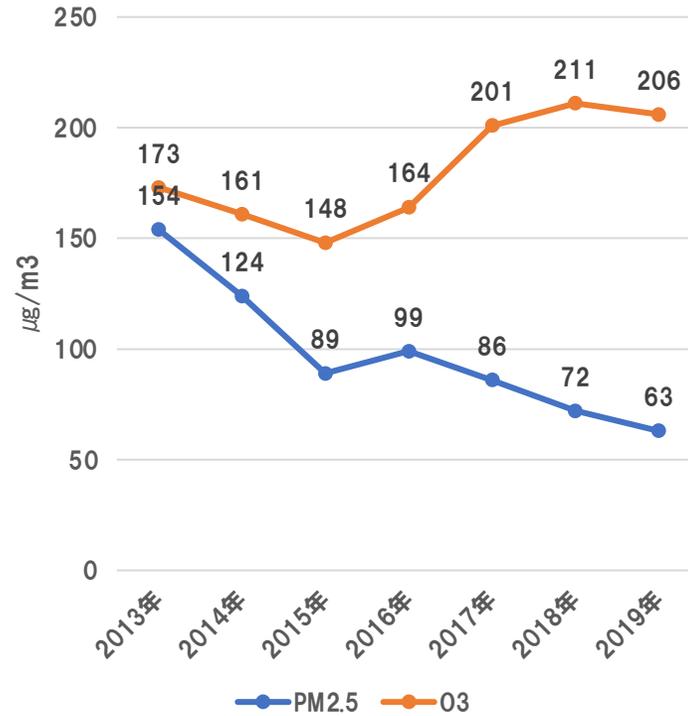


# 大气情况 大気の状態

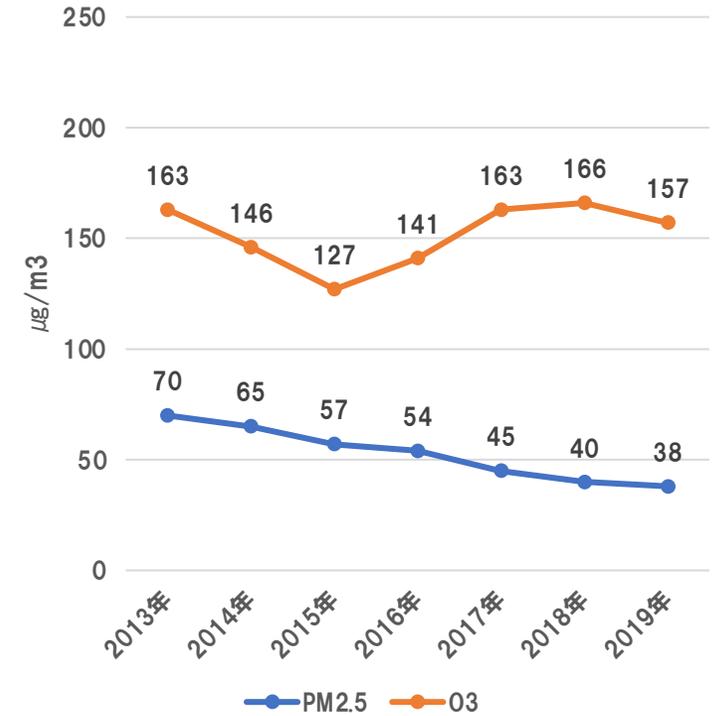
## 北京



## 石家莊 (河北省)



## 重慶



出所 中国統計年鑑(2014～2020年版)、日本環境省「平成30年度 大気汚染物質に係る常時監視測定結果」

注:日本のO<sub>3</sub>濃度は0xの値から換算(摂氏0度、1気圧の状態)、なお中国はパーセンタイル値が90、日本は98である(日本の値の方が高めに出る)ことに留意。

# 低炭-Carbon Neutral

- 在2020年9月的联合国大会上，习近平主席宣布了“**2030年前实现碳达峰，2060年前实现碳中和**”
- 2020年9月、第75回国連総会で習近平国家主席は「**2030年のCO<sub>2</sub>ピークアウト、2060年のカーボンニュートラル**」を公表
- 在2020年10月的国会上，菅义伟总理宣布了“**2050年实现碳中和、脱碳社会的目标**”
- 2020年10月、国会にて菅義偉総理大臣は「**2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す**」ことを宣言



中国的主要气候变化目標  
中国の主な気候変動目標

	2020年実績 (約100億t)	2025年	2030年	2060年
CO <sub>2</sub> 排出量	(約100億t)		Peak out	Carbon neutral
石炭消費量	(約40億t、CO <sub>2</sub> 排出量の約70%の原因)	Peak out		
非化石Energy比率/一次Energy消費(%)	15.9	約20	約25	80以上
風力発電+太陽光発電総設備容量(億kW)	5.3		12	
Energy消費量/単位GDP(%)	2015年比-13.1* <sup>1</sup>	2020年比-13.5		
CO <sub>2</sub> 排出量/単位GDP(%)	2015年比-18.8 2005年比-48.4	2020年比-18 2005年比-57.7* <sup>3</sup>	2025年比-17.3* <sup>3</sup> 2005年比-65	
森林被覆率(%)	23.04	24.1	約25	
森林蓄積量(億m <sup>3</sup> )	175.6* <sup>2</sup>	180	190	
【参考:日本】 CO <sub>2</sub> 排出量	2019年度 約12億t		2013年度比-46% (-50%へも挑戦)	2050年 Carbon neutral

\*1:2019年の値、\*2:2018年の値、\*3:筆者試算の値

# 循環-生活ごみ(垃圾)

- 2017年3月 生活ごみ分別制度実施計画

**2020年までに46都市※で分別を構築**

※ 直轄市、省政府所在都市、計画単列市(大連、青島、寧波、廈門、深圳)、邯鄲、蘇州、銅陵、宜春、泰安、宜昌、広元、徳陽、日喀則、威陽

- 2019年1月 上海市生活ごみ管理条例

(2019年7月 施行)

- 2020年4月 改正固体廃棄物環境汚染防止法成立

資源ごみ



乾ごみ



湿ごみ



有害ごみ

## 日本的生活垃圾分类 日本の生活ごみ分別

### 日本垃圾分类的情况 (2017年度)

### 日本のごみの分別の状況(2017年度実績)

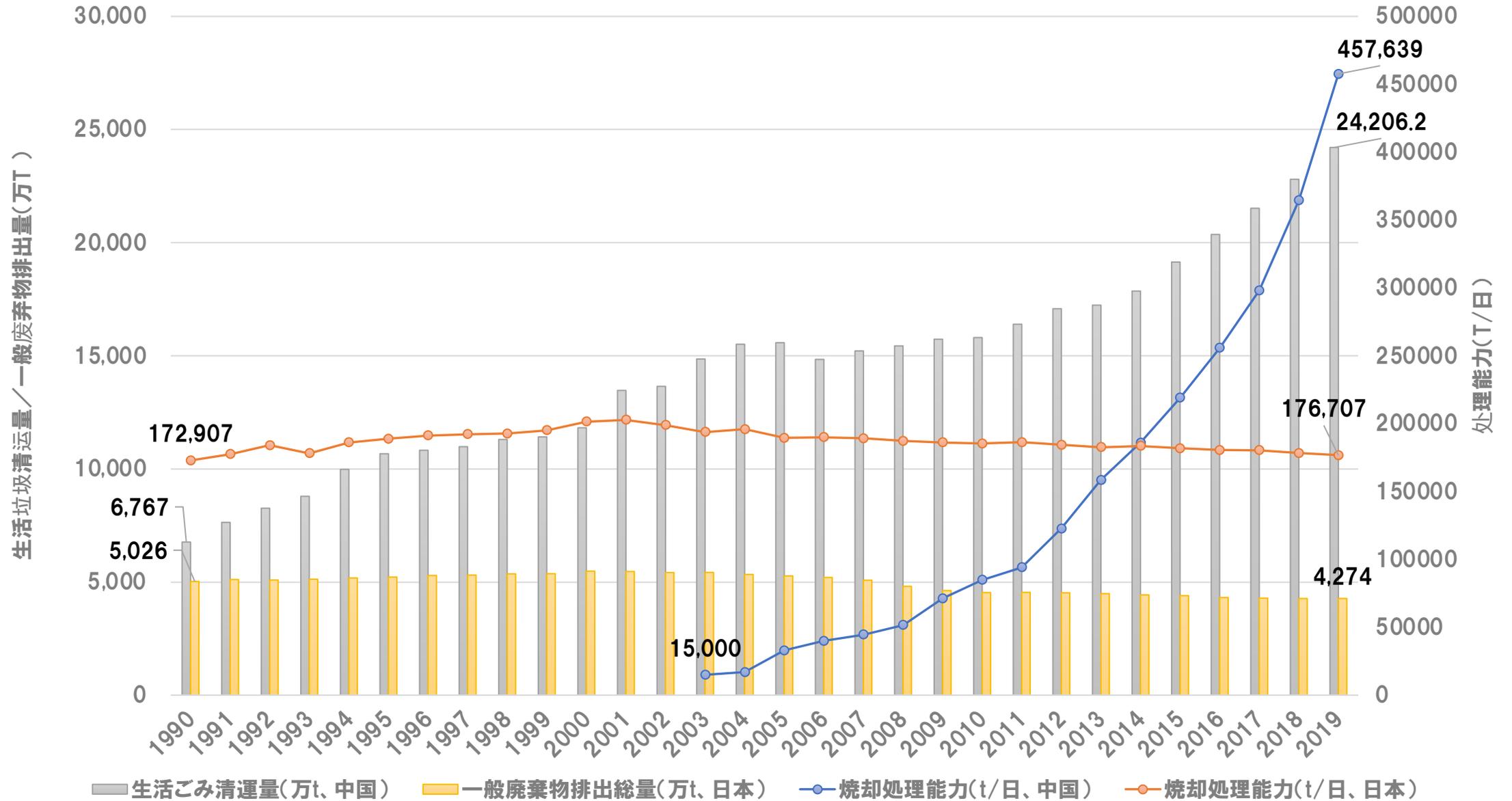
- ✓ 对于家庭排放的垃圾，日本并没有制定全国统一的分类方法规则，而是由自治体自行规定
- ✓ 日本では家庭から出されるごみの分別について、全国統一のルールはなく、自治体が自ら規定
- ✓ 据环境省统计，多数自治体将垃圾分为11-15类、分类最细的要数德岛县上胜町的45类
- ✓ 環境省統計によると、廃棄物を11-15種類に分別する自治体が最多、最も細かい分別は徳島県上勝町の45種類

分別数	0-1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11-15	16-20	21-25	26-
市町村数	0	5	7	9	39	66	61	89	107	115	639	425	128	29
1人1日当 たりごみ 排出量(g/ 人日)	-	902	1,058	1,103	979	983	1,009	919	906	905	891	890	849	860

出所:環境省(2019)「日本の廃棄物処理(平成29年度版)」

# 生活垃圾产生量和焚烧能力的中日比较

## 生活ごみ発生量と焼却処理能力の日中比較



出所 中国統計年鑑、日本環境省「一般廃棄物処理事業実態調査の結果について」